

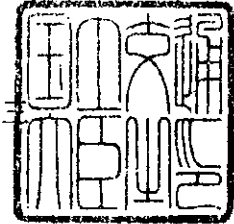


# 認定書

国住指第 2143 号  
平成 19 年 10 月 17 日

田島ルーフィング株式会社  
代表取締役社長 田島 国雄 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 63 条並びに同法施行令第 136 条の 2 の 2 第一号及び第二号（防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
DR-0407
2. 認定をした構造方法等の名称  
アスファルトシングル・アスファルトルーフィング・硬質ウレタンフォーム保温  
板表張／金属折板製下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

アスファルトシングル・アスファルトルーフィング・硬質ウレタンフォーム保温板表張/金属折板製下地屋根

2. 申請仕様の形状・寸法等

申請仕様の概要を表1に示す。

表1 申請仕様の形状・寸法等

項目	申請仕様
形状	シングル葺き屋根形状
支持部材の間隔	606mm 以下
支持部材の傾斜角度	0° 以上 30° 以下

3. 申請仕様の主構成材料

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
アスファルトシングル	<p>質量 8.6~15.4kg/m<sup>2</sup> (施工面積当り)                      厚さ 2.8~6.4mm (一枚当り)                      幅 306~336mm、長さ 916~1000mm                      質量 4.2~6.3kg/m<sup>2</sup> (一枚当り)                      働き幅 (葺き足) 125~150mm</p> <p>構成 (施工面積当り) :                      鉱物系粒子 (天然スレート砂、着色鉱物質粒) :                      質量 3.65~5.17kg/m<sup>2</sup> (着色顔料含む)                      平均粒径 2~3 mm</p> <p>無機質系フィラー混入アスファルト :                      質量 4.26~9.35kg/m<sup>2</sup> (アスファルトシングル質量の 49.5~60.7 質量%)                      無機フィラー60 質量%含む (炭酸カルシウム等)</p> <p>ガラス繊維マット :                      質量 0.22~0.44kg/m<sup>2</sup>、厚さ 0.7~1.3 mm (一枚当り)                      (アクリル系バインダー15 質量%以下含む)</p> <p>けい砂 :                      質量 0.37~0.44kg/m<sup>2</sup>、平均粒径 0.2 mm</p> <p>改質アスファルト系接着剤 :                      質量 0.37kg/m<sup>2</sup> 以下、または接着剤なし</p> <p>*有機質量 1.84~4.15kg/m<sup>2</sup> (全体の 27.3%以下)                      無機質量 6.76~11.59kg/m<sup>2</sup> (全体の 72.7%以上)</p> <p>・アスファルトシングルの形状と断面構成を図1及び図2に示す。                      ・アスファルトシングルの施工厚さと質量を表3に示す。</p>

## つづき

アスファルト系接着剤	固形量 $0.88 \text{ kg/m}^2$ 以下 (塗布量 $1.2 \text{ kg/m}^2$ 以下) または接着剤なし { <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">アスファルト</td> <td>42 質量%</td> </tr> <tr> <td>けい砂</td> <td>34 質量%</td> </tr> <tr> <td>石油系炭化水素 (溶剤)</td> <td>24 質量%</td> </tr> </table>	アスファルト	42 質量%	けい砂	34 質量%	石油系炭化水素 (溶剤)	24 質量%
アスファルト	42 質量%						
けい砂	34 質量%						
石油系炭化水素 (溶剤)	24 質量%						
アスファルトルーフィング	厚さ $0.6 \sim 1.5 \text{ mm}$ 、質量 $0.59 \sim 1.91 \text{ kg/m}^2$ (1層当り) 使用量 1層または 2層  構成 (1層当り) : 基材: 原紙または合成繊維補強紙または不織布 質量 $80 \sim 110 \text{ g/m}^2$ 浸透アスファルト: 浸透量 $160 \sim 375 \text{ g/m}^2$ (基材への浸透) アスファルト層: 質量 $305 \sim 458 \text{ g/m}^2$ 、またはアスファルト層無し アスファルトまたは改質アスファルト 炭酸カルシウム 40 質量% 以下含む 改質アスファルト系粘着層: 質量 $200 \sim 530 \text{ g/m}^2$ 、または粘着層無し 表面被覆層: 以下の①～③の何れか、または①と②、①と③を組み合わせた仕様とする。 ① 鉱物質粉粒: 質量 $180 \sim 240 \text{ g/m}^2$ 、平均粒径 $0.1 \sim 0.2 \text{ mm}$ ② 塗装合成高分子フィルム: 厚さ $12 \mu\text{m}$ 、質量 $20 \text{ g/m}^2$ ③ 塗料: 固形量 $10 \text{ g/m}^2$ 未満、または塗料無し 裏面鉱物質粒: 質量 $0.18 \text{ g/m}^2$ 以下、または鉱物質粒なし  * 合計有機質量 $2.80 \text{ kg/m}^2$ 以下 (1層または 2層の合計)						
断熱材	硬質ウレタンフォーム保温板 (JIS A 9511) : 厚さ $200 \text{ mm}$ 以下 (厚さ $50 \text{ mm}$ 以下を 4 枚以下重ね張) 密度 $37 \text{ kg/m}^3$ 、熱伝導率 $0.022 \text{ W/m}\cdot\text{K}$ 両面アスファルト含浸ガラス繊維マット張: 厚さ $0.1 \text{ mm}$ 、質量 $205 \text{ g/m}^2$ (一面当たり) { <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">ガラス繊維マット: 質量 <math>100 \text{ g/m}^2</math></td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td>(アクリル系バインダー 15 質量% 含む)</td> </tr> <tr> <td>含浸アスファルト: 質量 <math>105 \text{ g/m}^2</math></td> <td></td> </tr> </table>	ガラス繊維マット: 質量 $100 \text{ g/m}^2$	}	(アクリル系バインダー 15 質量% 含む)	含浸アスファルト: 質量 $105 \text{ g/m}^2$		
ガラス繊維マット: 質量 $100 \text{ g/m}^2$	}						
(アクリル系バインダー 15 質量% 含む)							
含浸アスファルト: 質量 $105 \text{ g/m}^2$							
断熱材接着層	アスファルト系接着剤: 固形量 $1.1 \text{ kg/m}^2$ 以下 (塗布量 $1.5 \text{ kg/m}^2$ 以下) { <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">アスファルト</td> <td>42 質量%</td> </tr> <tr> <td>けい砂</td> <td>34 質量%</td> </tr> <tr> <td>石油系炭化水素 (溶剤)</td> <td>24 質量%</td> </tr> </table>	アスファルト	42 質量%	けい砂	34 質量%	石油系炭化水素 (溶剤)	24 質量%
アスファルト	42 質量%						
けい砂	34 質量%						
石油系炭化水素 (溶剤)	24 質量%						

## つづき

プライマー	固形量 0.20kg/m <sup>2</sup> ①～④のうちいずれか一仕様とする。  ①アスファルトエマルジョン系プライマー ②アクリルエマルジョン系プライマー ③アスファルト・溶剤系プライマー ④なし
金属折板製下地	金属折板製下地： 金属製デッキプレート下地（JIS G 3352）、フラットデッキ*： 鋼板種類：SDP1T、SDP1TG、SPD2、SPD3 鋼板厚さ 1.0mm 以上 高さ 60～80mm *フラットデッキの形状を図 3 に示す。

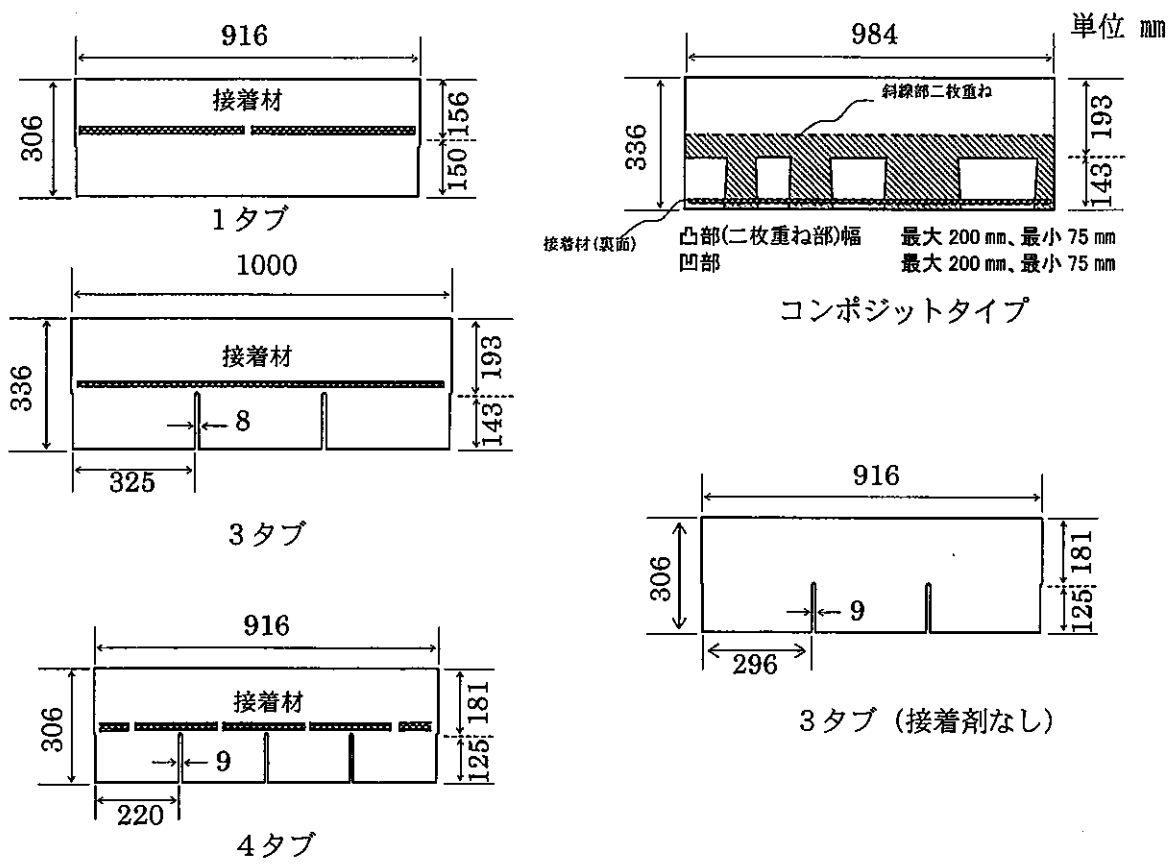


図1 アスファルトシングル形状

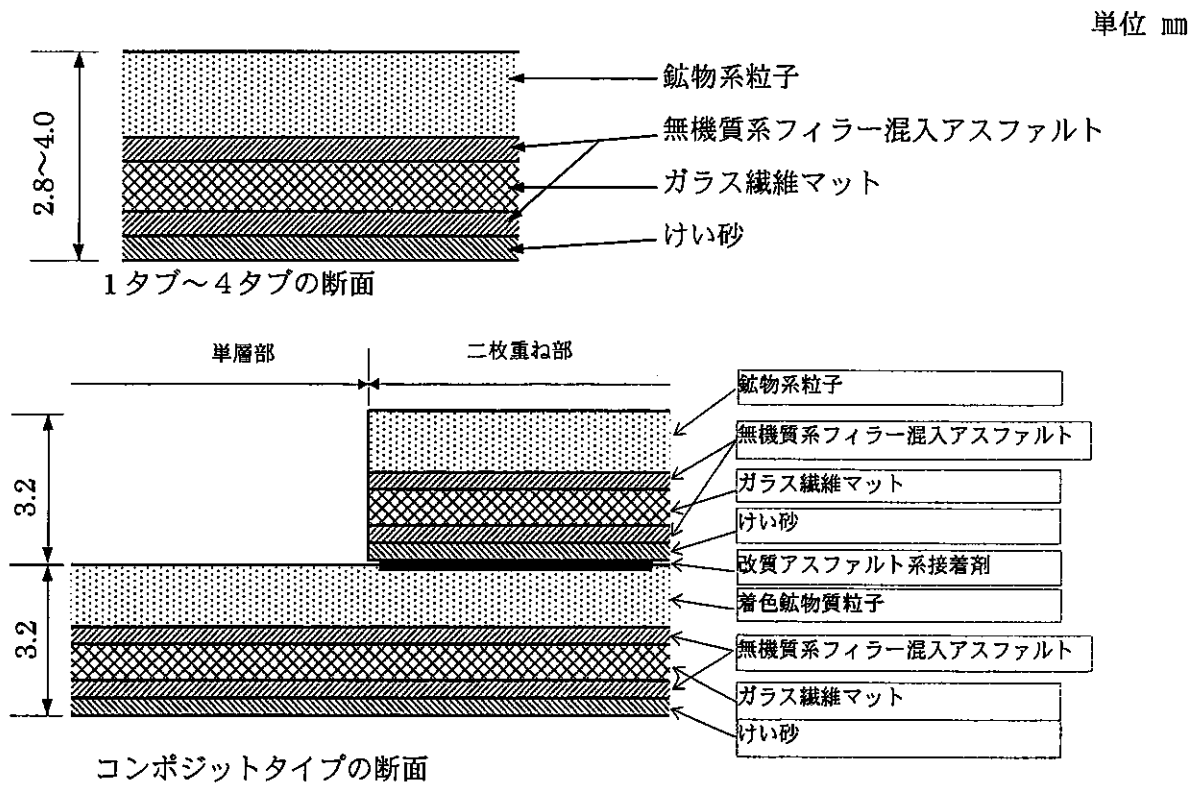


図2 アスファルトシングルの断面構成

表3 アスファルトシングル施工厚さと質量

形状	1タブ	3タブ、4タブ		コンポジットタイプ
厚さ mm	2.8~3.2	3.2~4.0	3.2	6.4
施工厚さ(最小部)mm	2.8~3.2	3.2~4.0	3.2	6.4
施工厚さ(最大部)mm	8.4~9.6	9.6~12	9.6	16
幅 mm	306	306	336	336
働き幅 mm	150	125	143	143
質量(1枚) kg/m <sup>2</sup>	4.2~4.6	4.6~6.3	4.2	5.2
質量 kg/m <sup>2</sup> (施工面積当り)	8.6~9.4	11.3~15.4	9.9	12.2

単位 mm

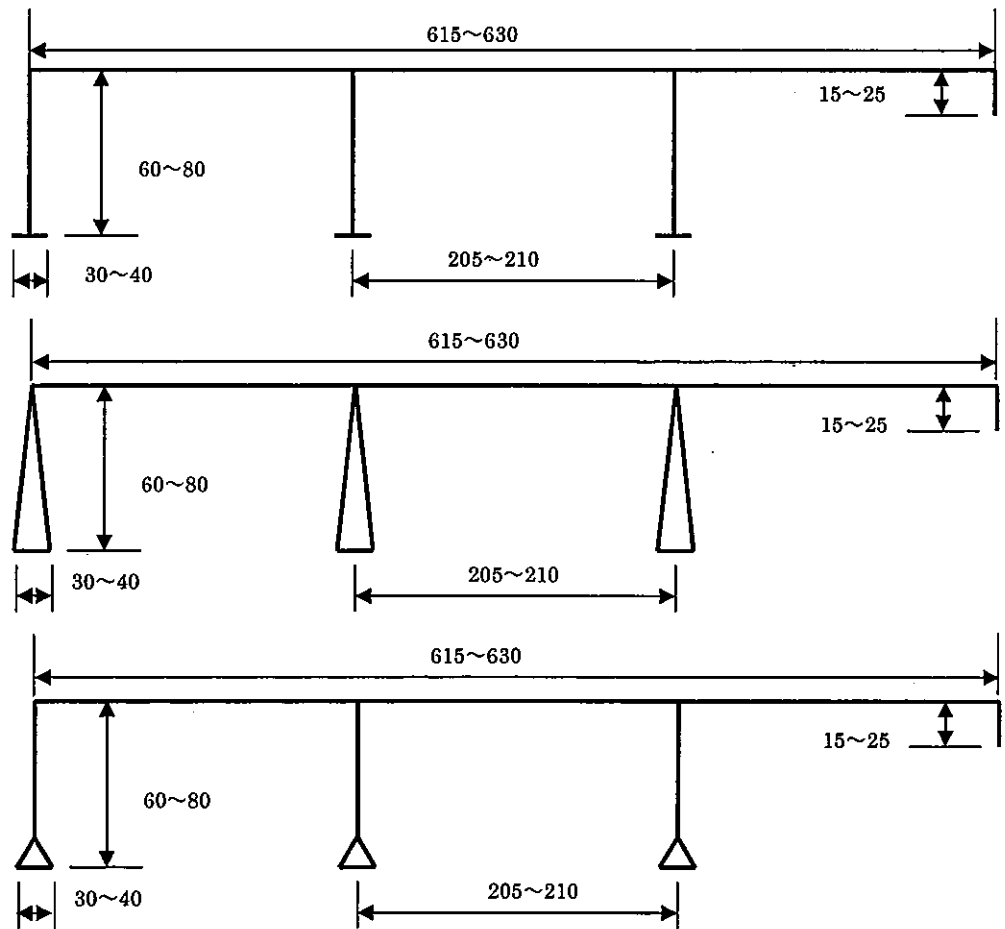


図3 フラットデッキの形状

4. 申請仕様の副構成材料

申請仕様の副構成材料を表 4 に示す。

表 4 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
くぎ、ねじ	鋼製くぎ、鋼製ねじ： 長さ 25 mm以上、直径 2.5 mm以上
ステープル	鋼製ステープル (JIS A 5556)

5. 構造説明図

申請仕様の構造説明図を図 4 及び図 5 に示す。

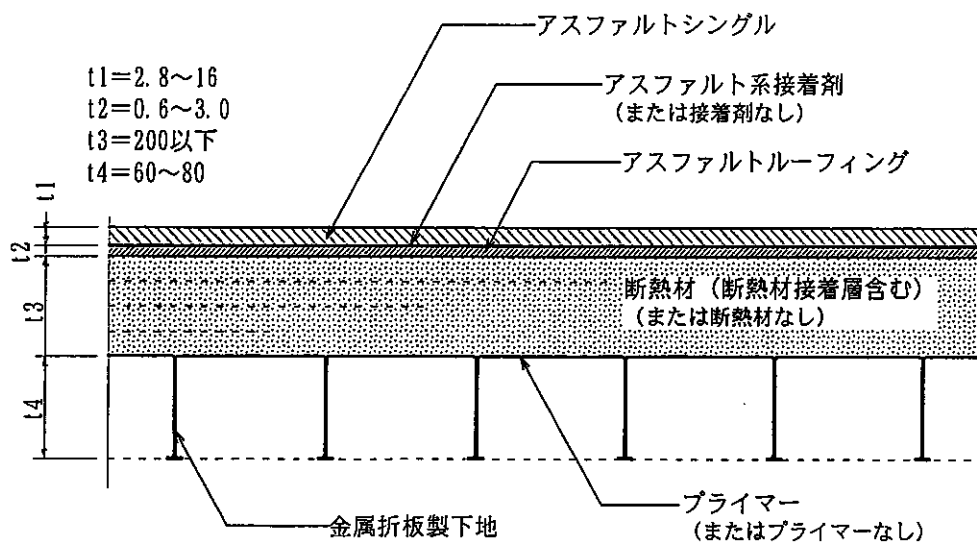


図4 構造説明図(1)

<傾斜方向断面>

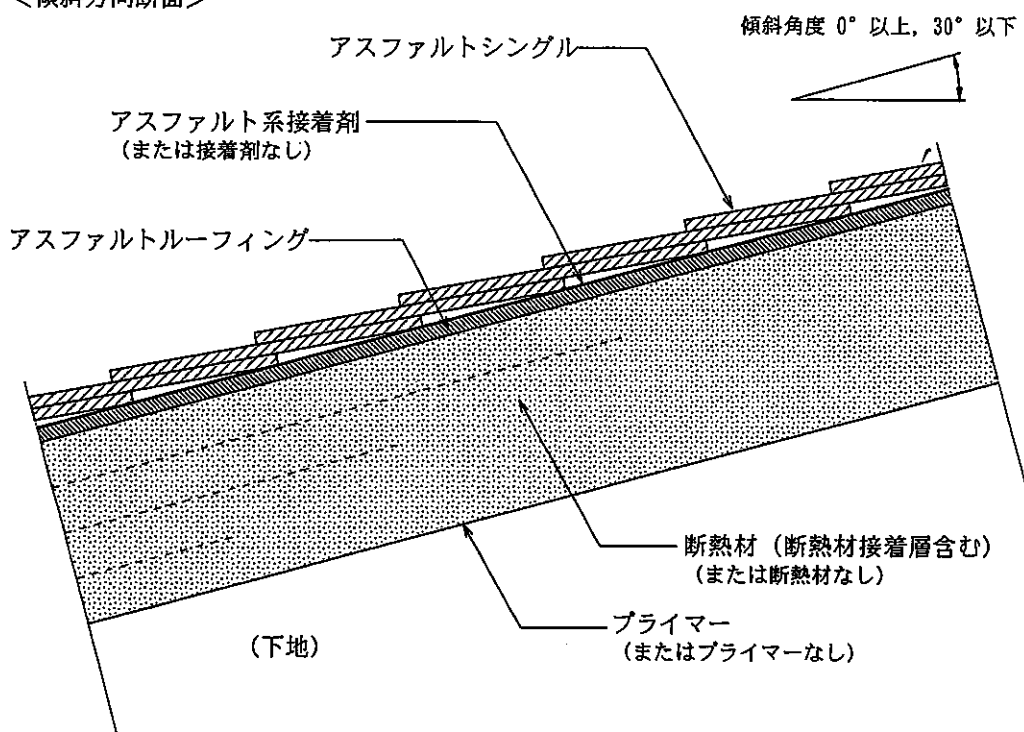


図5 構造説明図(2)

## 6. 施工方法

申請仕様の施工図を図6～図8に示す。  
施工は以下の手順で行う。

### 1) 下地

- ・下地の勾配（傾斜角度）は $0^{\circ}$ 以上、 $30^{\circ}$ 以下とする。
- ・目地あき、目地違いは平滑な状態に修正する。
- ・耐火下地（フラットデッキ）は、接着の妨げとなる塵埃・油脂類・汚れ・さびが無いこと。
- ・十分に乾燥すること。

### 2) アスファルトルーフィングの施工

アスファルトルーフィングの施工は以下の工法により行う。

#### 2-1) 粘着層がない場合

- ・下地に、ステープルでアスファルトルーフィングを止めつけて、防水層を形成する。  
ルーフィングの重ね幅は、長手方向に100mm、幅方向に200mmとする。

#### 2-2) 粘着層がある場合

- ・裏面に付いている剥離紙または剥離フィルムをはがし、下地に貼り付ける。  
ルーフィングの重ね幅は、長手方向に100mm、幅方向に200mmとする。

### 3) アスファルトシングルの施工

アスファルトシングル(葺き材)の施工はアスファルトルーフィングの施工が完了した後、3-1)、3-2) いずれかの工法により行う。

#### 3-1) 釘打ち工法（下葺材が粘着層なしのアスファルトルーフィングの場合）

- ① 葺き材の張り始めは、葺き材を切り出したスターターとし、その裏面にアスファルト系接着剤を用いる場合は同接着剤を塗布（塗布量 $1.2\text{kg}/\text{m}^2$ 以下）し、下地に接着させる。（または、あらかじめ接着剤を塗布した専用スターターを用いる）
- ② 第1列目の葺き材は、アスファルト系接着剤を用いる場合は同接着剤を塗布（塗布量 $0.6\text{kg}/\text{m}^2$ 以下）し、スターターから $1/2\sim 3/8$ ずらして下地に釘で固定する。
- ③ 2列目以降は、葺足（施工ピッチ）は、 $125\sim 150\text{mm}$ とし、下地に釘で固定する。
- ④ 葺き材1枚につき5本以下の屋根材固定釘を打つ。
- ⑤ 葺き材張り付け後は、直ちに転圧ローラーで先端を、十分に転圧する。

#### 3-2) 接着工法（下葺材が粘着層ありのアスファルトルーフィングの場合）

- ① 葺き材の張り始めは、葺き材を切り出したスターターとし、その裏面にアスファルト系接着剤を塗布（塗布量 $1.2\text{kg}/\text{m}^2$ 以下）し、下地に接着させる。（または、あらかじめ接着剤を塗布した専用スターターを用いる）
- ② 第1列目の葺き材は、アスファルト系接着剤を塗布（塗布量 $1.2\text{kg}/\text{m}^2$ 以下）し、スターターから $1/2\sim 3/8$ ずらして下地に接着する。
- ③ 葺足（施工ピッチ）は、 $125\sim 150\text{mm}$ とし、2列目以降は、アスファルト系接着剤を塗布（塗布量 $0.6\text{kg}/\text{m}^2$ 以下）し、下地に接着する。
- ④ 葺き材1枚につき2本以下のずれ止め釘を併用する。
- ⑤ 葺き材張り付け後は、直ちに転圧ローラーでアスファルト系接着剤塗布面に沿って、十分に転圧する。

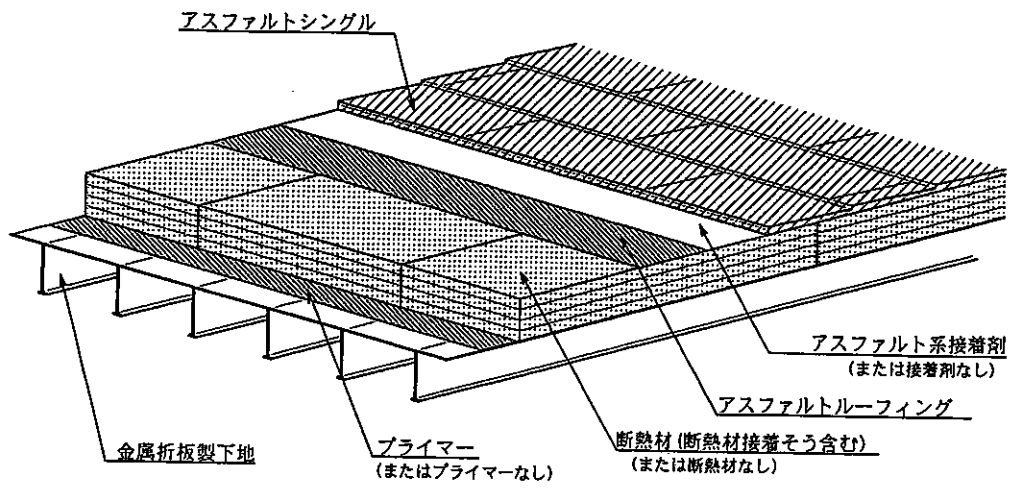


図 6 申請仕様の施工図

単位 mm

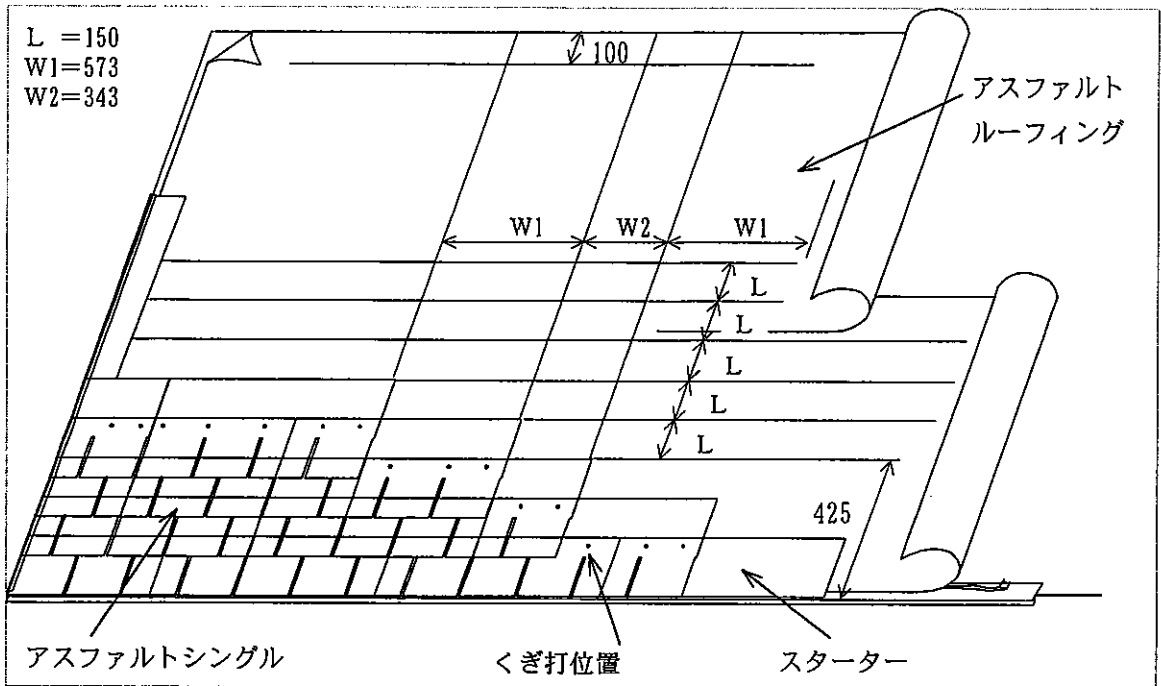


図7 申請仕様の施工図 (アスファルトシングルの施工: 1タブ~4タブ)

単位 mm

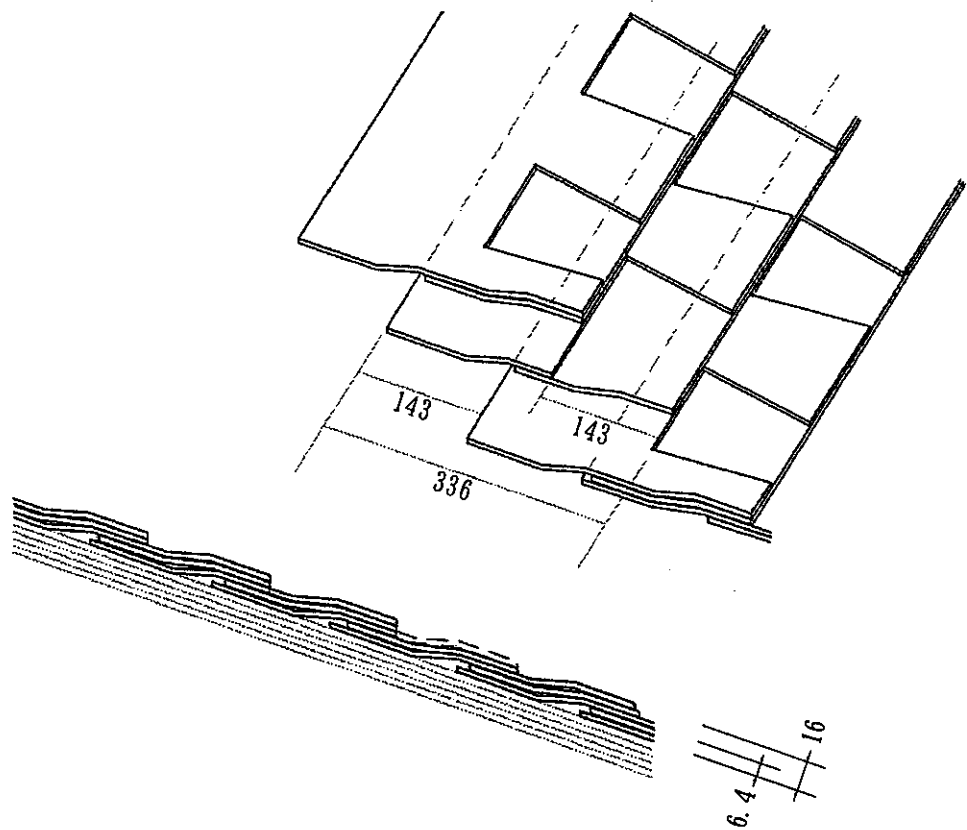


図8 申請仕様の施工図 (アスファルトシングルの施工: コンポジットタイプ)